

# 欲望と社会

はじめに:今日は社会の構造の話とその原動力というべき欲望の話をしたと思います

## 1. 欲ってなに?

欲望:内在的・恒常的に存在しているもの

拡大化・肥大化してくるもの

多種の要因の総体である「もの」

近代経済学:ガリアーニによる欲求の数式化

(数式化 基数的効用理論の歴史)

V・パレートによる数式化

序数的効用理論

選好順序

サミュエルソン

顕示選好理論

否定的意見:ジョージ・スクレーゲンの序数的効用理論批判

欲望の3段構造(生物的・社会的・個人的欲求)

還元可能性の否定(選好順序の連続性)

クロウチェの通訳不能性(パレート批判)

機械的な動作と反応という観点では人の欲望は理解できない

固有の特定状況一歴史的事実としての事実(条件・状況)

道徳なしの資本主義は熱死

古典経済学:アダム・スミスの道徳感情論

精神という「精巧な過剰」を持った人間

超自然的な存在としての人間

自然欲望+@の欲求

自然の欺瞞の「虚栄」の善

象徴的欲求と自然的欲求との関係 (ガリアーニ)

最後の切り札としての「虚栄」

行過ぎた活性を抑える「気配り」

シュンペーターの「プリ・ウルトラ」

慣行の循環からの脱出(もっと遠くへ)

飽くなき活動性

## 2. 心理学から見る欲望

フロイトの人間の「エス」  
自我と三人の暴君  
衝動の中の欲望(エロス・タナトス)  
バタイユの「内奥の世界」  
蕩尽・または消費によって  
ベルグソン「生の飛躍」  
生命の飛躍の事故連動とわれわれの内なる資本主義

## 3. 欲望が社会を動かす・またその影響

ブローデルの社会の3階建て構造  
物質文明・市場経済・資本主義  
停滞安定社会・完全競争社会・指導者の社会  
各階に存在する自然的部分・理性的部分・欲望部分  
1階と3階との対立(それによって起こりうる揺らぎ)  
ジョージ・スクレーゲンの社会の移動および進化  
「量的変化と質的变化」  
質的概念の喪失による社会的な人間の変化(理性の欠如)  
ハイエクの理性による自主的秩序  
正義の法・倫理の醸成によるタナトスの抑圧  
知識の相互作用システムとしての「市場」  
進化する知識としての文明進化論  
K・ポラニーの社会2重運動説  
「市場経済の拡大」と「社会の自己防衛」  
伝統の結合様式の破壊 VS 自然の反撃

## 4. 資本社会と基層社会の構造の自分の考え(おわりに)

### 【参考文献】

- フィリップ・K. ボック(著)『心理人類学—その歴史と連続性 現代社会科学叢書』東京創元社  
1987年  
池田義祐・高橋憲昭・豊嶋覚城(編)『現代社会と社会学』法律文化社 1980年  
千種 義人(著)『経済学入門』同文館出版 1990年